

令和6年度 県立多賀高等学校自己評価表

目指す学校像		(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校				
		(2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校				
		(3) 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「シチズンシップ」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校				
三つの方針		具体的目標				
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)		よりよい社会づくりに主体的に貢献しようとする「市民性」を培い、社会に貢献できる人材を育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)		多様な進路ニーズに対応するカリキュラム編成及び探究学習を基盤とする主体的な学習態度の育成			
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)		学校づくりの主役として日々努力し、自己有用感・自己肯定感を高めることができる生徒 学習意欲を持ち、学校教育活動全体を通し、スポーツ・文化・芸術を主体的に体感し楽しもうとする生徒			
昨年度の成果○と課題△		重点項目	重点目標		達成状況	
○四大進学者数135名 △国公立大合格者(R4 7名→R5 6人) ○家庭学習時間1・2学年平均約90分 △ベネッセ学力テストB3以上約25%		新学習指導要領の学習評価に即した授業体制による学力の向上、並びに主体的な学習体制の構築	① タブレット等を活用した、家庭学習教材の配信増・家庭学習時間一日平均120分以上 ベネッセ学力テストB3以上40%以上		B	
			② 四大進学者のうち「一般入試」受験者率60%以上 進路実現率100%		B	
○R5授業評価アンケート(生徒向け) ICT活用満足度80%、探究型授業満足度75% 指導と評価の一体化満足度80%		(2) 授業改善の実施	③ 授業評価アンケートを活用し、授業改善を実施する。 授業評価アンケート平均3.5以上		A	
○HRへの帰属意識向上→自己有用感の向上 ○規範意識の向上→生徒指導事案の減少		(3) 自治的能力と自律心の育成	④ HRへの帰属満足度90%以上 生徒指導事案5件以内		C	
○学校行事等で主体的に取り組み、自己達成感を得られた生徒90%超 △コロナ禍で不登校や登校渋りの生徒の増加。SCの活用増(延べ生徒55名、保護者2名) ○家庭学習時間の増加。1・2年生の1日の平均家庭学習時間120分		(4) 切磋琢磨の奨励と心身のケア	⑤ 行事後のアンケートで自己達成感・満足感を得られた生徒90%以上		A	
			⑥ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期対応により、不登校・登校渋りの生徒50%削減		B	
			⑦ 学校行事やHR活動を充実させ、クラスや学校での居場所を確保し、転退学者数50%削減		B	
			⑧ キャリアパスポートの効率的な活用を通し、進路意識を高揚。進路的行事1年3回、2年3回、3年2回以上実施		A	
△超過勤務時間月80時間以上で面談を実施した人数延べ8人→10人		(5) 働き方改革の実施	⑨ 超過在校時間45時間以上0名 勤怠管理システム未登録者0名		C	
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度への課題
教務	1 教育課程の着実な実施		①各授業時間の確保を徹底(授業交換の徹底、考查間の各授業実施率の均等化、曜日交換の実施、授業時間確保のための行事再検討の実施) ②本校グランドデザインと教育課程実施におけるシラバスならびに各教科評価システムの顕在化(グランドデザインとシラバスのホームページでの公開)		B	1①継続 授業時間確保を意識した行事の検討。 2継続 指導と評価の一体化、ICT活用についての研修会を充実させる。相互授業参観を活発に行い、授業改善に役立てる。 3上段 継続 下段 継続 指導要録に関しての、表記方法や点検方法の見直しやシステム化をはかる。 校内規定集の定期的な見直しを進める。 ・4月より、校務支援システムによる生徒の出欠管理をスムーズに進める。 ・全体的なマニュアルや様式等の見直し。 ・教務内の係り・仕事分担の見直し。
	2 新学習指導要領実施に伴う研究		①新学習指導要領に基づく教育課程の検討継続と各教科における指導方法及び評価システム構築の研修機会の増加→2回以上開催(教育課程検討委員会) ②授業改善や指導と評価の一体化に関する研修会や相互授業参観等の実施→2回以上(授業改善推進チームを中心に) ③ICT(タブレット端末等)を活用した授業についての研修機会を、年度初めから計画的に継続実施→3回以上実施(GIGAスクール構想推進委員会)		B	
	3 情報管理の徹底と効率化		①考查問題・答案や成績を含む個人情報の管理の徹底と情報管理手順の確実な伝達(考查問題・答案の保管、素点・成績等の取扱いについて毎回注意喚起) ②考查の申し合わせ内容および再考查に関わる内容についての検討 ①校務支援システムの円滑な運用に伴う、活用マニュアルの改編 ②諸帳簿の確実な運用記入・点検体制の構築(新学習指導要領指導要録の点検方法の見直しとマニュアル化) ③ICT機器の管理運営マニュアルの見直しと作成 ④校内規程集の整備を完了する		B	
教図書係	4 図書館利用の促進		①図書利用環境の整備 ②図書委員会の活性化		B	4 上段①②継続 4 下段継続
			①利用者を増やす具体的方策の検討(学年や教科との横断的な利用の検討)		B	
教渉外係	5 PTA活動の活発な運営		①各PTA行事内容の検討および実施(PTA総会への保護者参加増の方策の検討)		B	5 継続 6 継続
	6 各種活動ごとの内容のブラッシュアップ		①評議員決定方法、各係・各学年PTAの活動内容および実施時期の再検討		B	
生徒指導	1 問題行動の未然防止		①生徒との信頼関係の構築に重点を置いた、各種生活指導の徹底 ②下校指導の回数の再考		B	要支援生徒増加に対する対応。 社会情勢の変化に応じた研修の充実や内規の見直し。
	2 要支援生徒への早期対応		①要支援生徒の増加に対応するための教員研修の充実		B	
	3 生徒や社会の実態に応じたルールの研究		①生活指導に関する学校内規の見直しを検討		B	
進路指導	1 学習習慣の確立および基礎学力の養成		①週末課題・小テスト実施の奨励 ②Classiによる家庭学習時間入力の徹底 ③平日1時間以上の家庭学習生徒70%以上		B	・学習習慣の確立と基礎学力の養成は、本校生の学習指導において最も重要な課題である。引き続き掲げていきたい。 ・大学の年内入試の割合は全国的に増加傾向にある。多様な入試形態に対応する研究が必要である。 ・進路指導部、3学年だけでなく、全教職員により個別指導に当たる本校の協力体制を、今後も活かしていきたい。
	2 大学一般入試に対応する学力の錬成		①長期休業中の課外指導、模擬試験の活用(解説・解き直し含む) ②国公立大学合格7名以上 ③四年制大学志望者のうち、一般入試による受験率50%以上		C	
	3 一人一人の進路希望の実現		①面談3回以上実施 ②小論文指導等の個別指導の充実 ③進路希望実現率100%		B	
特別活動	1 生徒自ら企画立案する場の確保		①松苑祭の運営を生徒が主体的に取り組めるよう、企画立案・運営の場を設定する。 HR活動で5回・委員会活動・学校行事で各2回以上実施		B	・学校行事の精選と生徒の主体的な活動による行事運営の推進 ・働き方改革に向けた良好な部活動の運営体制について今後も検討を進める必要がある。
	2 特別活動精選の検証		①部活動運営方針等、部活動の在り方を検証し精選		B	
	3 生徒の主体的な活動としての部活動指導体制の確立		①部活動における様々な経験を通して、心身を練磨し他者と積極的に関わり、人としての成長を促す。		A	
	4 ICTを活用した行事の運営		①行事等でICTを効果的に活用 ②オンラインを活用した学校行事の運営		A	

＊評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目		具体的目標	具体的方策	評 価		次年度への課題
保健 厚生	1	学校環境の美化・整備	①ペットボトル、燃えるゴミ、弁当ゴミの分別を徹底(保健厚生部で毎月点検・確認を実施)	B	B	引き続き感染症対策に留意する。またゴミの分別を徹底できるように改めて指導していく。
	2	安全衛生管理の充実	①新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症の予防及び対策 ②災害備蓄品の管理表作成と整備	B		
	3	生徒の健康の保持増進	①学校での歯科検診未受診者に対する通院受信の指導を養護教諭が面談で実施 【指標】通院受診率5割	B		
第一学 年	1	学習習慣の確立 および基礎学力の養成	①各教科でのClassi 動画の計画的配信や確認テストの定期的実施などにより、家庭学習を習慣化させる。 ②基礎学力を養い、1年後半における対外的な成績向上を目指す(7月<11月<1月)。	B	B	成績向上のために学習動画の活用や家庭学習の習慣化が必要。 基本的学習習慣の確立・規範意識の向上のため根気強い指導。 部活動や資格取得などを積極的に促していく。
	2	進路意識の醸成	①Classiの導入及び学習記録の入力を継続させるため、担任による声掛けなどを行う。また、進路に関する調べ学習や社会人インタビューなどを計画実施し、進路意識の高揚を図る。 ②類型選択のためのガイダンスを実施するとともに面談を行い、適性・能力に合わせた選択をできるよう手助けする。	B		
	3	学校生活および集団活動を通じた望ましい集団の形成	①学校行事やホームルーム活動において、自発的・自律的に運営できるようになるための手助けを行う。 ②年2回以上の生徒面談を実施し生徒理解に努め、全ての生徒が心身ともに健康的な生活を実現できるよう支援する。	B		
第二学 年	1	学力の充実	①授業、小テスト等を通じ、主要3教科(英数国)を中心に家庭学習を促し、学力の充実および向上をはかる。目標：文系 国英歴偏差値45以上50人 理系 英数理偏差値45以上7人 ②Classi等を利用して各自の学習に対する振り返りを促し、希望する進路実現のためにふさわしい学力を身につけさせる。目標：家庭での学習時間1時間半以上(学年平均)	C	B	11月模試では、文系理系とも偏差値40～45が最も人数の多い層となっているため、この層を引き上げたい。家庭での学習時間の量・質を高める工夫、進路についてより具体的に考えさせる工夫をより一層していきたい。
	2	自らの進路に関する理解	①生徒面談や進路行事、LHR・総合的な探究の時間等を通じて、生徒が自身の特性を理解し、進路目標を早期に確立できるよう支援する。 目標：2年3月段階で具体的な進路目標(入試方法等も含む)決定者8割以上	B		
	3	学校生活および集団活動を通じた望ましい集団の形成	①授業やホームルーム活動、学校行事を通じて、生徒が主体的に運営・参加することにより自己有用感を高め、より良い人間関係を形成できるための支援をする。 目標：1年時と比較し遅刻者・早退者・7日以上欠席者の減少	B		
第三学 年	1	学力の向上	①授業内容の充実、家庭学習課題への取り組みの向上、課外授業の実施などを通じた、全ての生徒の学力の充実・向上ならびに入試における学科試験に対応できる学力の獲得(数値目標：教科シラバスの計画実施、ベネッセ全国模試・英数国総合偏差値平均45以上(全体)、偏差値50以上の生徒20名)	B	B	3年間を見通した計画的な進路指導や仕組みを学校としてきちんと整備し、体制作りをする必要がある。早期から国公立大や難関私大を意識させる仕掛けや、就職希望者への指導も含めた進路実現に向けたノウハウの蓄積と、教員間の共通理解、また学習に対して苦手意識を持つ生徒への配慮・対応も必要である。 生徒の自主・自立性、協調性を育み、責任感を持った公正な態度の育成は継続していくべきである。欠課時数が多い生徒や生徒指導対象となる生徒への継続した教育相談の指導も必要である。
	2	進路目標の実現	①面談の複数回実施および普段の学習・生活指導の充実による、生徒の適性・能力に応じた進路目標達成(数値目標：希望者の進路決定率100%、国公立大学合格者7名以上)	B		
	3	人間関係の育成	①学習活動や学校行事などを通じた、相手の立場に立って考えることのできる「思いやりの心」や協調性・責任感をもった公正な態度の育成。(数値目標：長期欠席者数および欠席日数の減少と全員の卒業)	A		
教科	国語	1 語彙・古典文法等の基礎学力の定着	①知識・技能の確認小テスト実施と授業内での事前・事後の啓発指導。 ②小テスト正解率60%、定期考査での振り返り問題正解率70%	B	C	漢字検定受験者の合格率向上のための課外等の実施。
		2 思考力・判断力・表現力の育成	①学習指導要領に準拠した言語活動の実施を目的とした各種メディア活用。 ②新指導要領シラバスの国語科全体での検証(前期1回)と実施状況分析(後期1回)	B		
		3 漢字検定受験者の合格率向上	①学習教材の提供および受験後の分析情報提供による意欲喚起 ②上位資格となる準2級以上の受験者の合格率70%以上	D		
	地歴・ 公民	1 基礎学力の定着	①ワークノートの活用や小テストの実施を通し、知識の定着を図る。	B	B	表現力の育成や総合型入試への対応などを考慮し、調べ学習や発表の機会を取り入れる。
		2 ICTを取り入れた授業の実施	①すべての科目でICT機器を活用し、授業改善に取り組む。	A		
		3 表現力の向上を図る授業の実施	①論述式問題などを取り入れ表現力の育成を図る。	B		
	数学	1 ICT授業の実施	①電子黒板を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施 ②生徒用タブレット等を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施	B	B	・新学習指導要領に即した指導と評価 ・ICTを利用した授業実践と研修 ・数検などの課外の検討と数検の奨励
		2 学習習慣の定着	①Classiによる動画配信や定期考査前の課題提出【指標】提出率100% ②長期休業中の課外を実施【指標】参加率50%	B		
		3 数学検定の合格率の増加	①受験者に対する課外を実施【指標】合格者40名以上	C		
	理科	1 ICTを取り入れた授業の実施	①教科におけるICT研修及び、教材・技術の共有 ②ICTを活用した授業を8科目全てで実施	B	B	①実験・観察の回数をできるだけ増やしていきたい。 ②ICTの活用法や使用頻度を検討する。
		2 体験的学習の推進	①生徒及び演示実験を各科目3回以上実施 ②実験が実施できない場合は動画映像資料で代用	C		
		3 思考力・判断力・表現力の育成	①ペアワーク、グループワークを取り入れた授業を実施 ②学習成果を発表する場を1回以上設ける	B		
	保健 体育	1 規律順守の徹底	①始業時の整列や挨拶、準備体操、体力づくりなどを主体的に実践させ、指導・評価・助言を実施	A	B	・新学習指導要領に対応した指導と評価の進め方の工夫。 ・ICTを活用した保健・体育の授業実践。科内での共有。
		2 基礎体力の向上	①運動学習場面60%を目標に、運動量の確保	B		
		3 わかる保健授業の展開	①授業力向上のための科内研修を月に1度実施	B		
	芸 術	1 創作の喜びを実感させる授業展開	①生徒の実態に即し創作の楽しさを実感させられる教材の精選と授業の展開 授業評価アンケート肯定的意見90%以上	B	B	ICTを使用する場面や活用方法の幅を広げる
		2 言語活動を取り入れた鑑賞活動の充実	①言語活動を取り入れた鑑賞学習の充実と、作品制作の過程を記録・発表させるなど対話的で深い学びを目指した授業の展開	A		
		3 ICT授業の実施	①電子黒板や生徒のタブレット等のICT教材を利用した授業の研修と実践	B		
	外国 語	1 大学入試に対応できる「読む力」の育成	①授業および家庭学習課題において英文を読み、定期試験及び確認テストを行う。 (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B	B	授業中の取り組みは全体的に良好である一方、課題や自学を通して大学入試(一般入試)に対応できる英語力の定着に課題あり。 スピーキング、ライティング等の言語活動、発表には意欲的に取り組ませることができているが、実践的な表現力の育成には課題あり。 英検の受験者数が減っている。大学入試で年内入試希望が増えているため、引き続き英検取得を奨励していきたい。
		2 大学入試に対応できる「聴く力」の育成	①授業および家庭学習課題において英語を聴き、定期試験および確認テストを行う。 (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B		
		3 英語による思考力・判断力・表現力の育成	①授業において「書く」「発表・やりとり」などの活動を行い、提出作品やパフォーマンステストにより評価する。 【指標】[B評価]提出作品やパフォーマンステストにおいて、到達目標を全ての生徒が達成	B		
		4 英検受験の奨励と資格取得者増加	①「受験の奨励」を鑑み、(準)会場を設定して受験を奨励するとともに、1次試験合格者に対しては2次試験対策面接を実施する。 【指標】 1学年：準2級取得者20名以上(既取得者含む) 2学年：準2級取得者50名以上(既取得者含む)、2級合格者5名以上 3学年：準2級合格者70名以上(既取得者含む)、2級合格者10名以上(既取得者含む)	B		

＊評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目		具体的目標	具体的方策	評 価		次年度への課題
教科	家庭	1 家庭生活を充実向上するために必要な知識・技能・態度の育成	①自立した生活者として生きていくために必要な、知識・技能・態度を身に着けるため、探究活動やICTの活用を適切に取り入れ、実践力を育成していく。 【指標】(1)自立した生活者としての意識と知識が向上したと答える生徒90%以上 (2)授業評価アンケート平均3. 5点以上 (3)ICTを活用した効果的な指導方法の研究をさらに進める	B	B	指導と評価の一体化のための授業研究を進める。年間指導計画の見直しを進め、課題解決型の授業や評価の仕方についてもさらに研究を進める。ICTのより効果的な活用方法について研究を進め、効率的な授業の進め方を模索していく。。
		2 自己の家庭生活の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。	①ホームプロジェクトの事前指導を適切に行い、夏季休業中課題としてホームプロジェクトを実践し、校内で発表会を行う。優秀な作品は掲示するなどして、生徒に共有する。 【指標】ホームプロジェクトの全員提出・発表。作品の掲示。	B		
		3 実験・実習の効果的な実施	①ICTを効果的に活用し、実験・実習を効率よく行い、知識・技術を効果的に身に着ける 【指標】(1)授業の5/10以上に実験・実習・探究の要素を取り入れる (2)実技分野で実践力が向上したと答える生徒85%以上	A		
	情報	1 情報化社会で必要となる態度・知識・技能の定着	①新テスト対応を念頭に知識、技能の定着図るAL型授業の拡充研究 【指標】「情報化社会を生き抜く知識・態度が身についた」者90%以上	B	B	・新教育課程への指導と評価の研究 ・プログラミング教材を用いた指導の研究
		2 個別テーマ学習の実施	①テーマの理解、解決、自己の考えの形成、解決法、表現方法を個別に指導 【指標】「自己の考えを的確に表現できるようになった」者85%以上	B		
		3 主体的・協働的な学びの評価の確立	①AL型授業の実践を通し、評価方法の確立と、評価の生徒へのフィードバックを充実する 【指標】「自ら進んで他者と協力することができるようになった」者85%以上	B		
	総合的な探究の時間	1 進路実現(大学・専門学校・就職等)に関する自らの課題を発見し、まとめて他者に伝えることにより、それらに関する知識を深めることができるようになる。	①社会人インタビュー：地域の社会人を招き、希望別に講話を聴講。事前学習、実施、振り返り、発表を行う。 ②大学見学会、大学模擬講義：1学年は大学を希望別にコースを設定し見学。2学年は各大学の教員を招き、実際に講義を聴講。事前学習、実施、振り返りを行う。	A	B	・探究学習の3年間の計画の刷新・見直し ・学校内での役割分担。具体的な進め方を教員間で共有して全体で協力して進める。 ・学校教育目標から逆算して考えた計画的・段階的な指導 ・教員研修の実施と探究指導に対する教員の共通理解 ・探究をいかに深めていくか、外部人材等の活用の仕方。
		2 調べたことについて考え、整理してまとめ、表現できるようになる。	探究スキル育成(1学年)：探究ナビ等を使用し、探究スキルを育成する。 課題探究学習(2学年)：地元地域について、テーマごとに現状と課題について調べ、課題解決について探究したことをまとめて発表。質疑応答などを経てさらに発表の質を高める。	B		
3 現代社会に柔軟に対応するための課題解決能力を高めることができる。		①個人での探究活動をさらに深めていく。 ②小論文指導では、国内外で起こっている様々なことがらについての記事やニュースから問題点や感じたこと、解決策などをグループで話し合い、文章化する。	B			
いじめ対応問題	1 いじめの未然防止・早期発見	①一人一人が自己効力感を得られる出番を確保し、自信を育成 ②生徒・家庭への定期的な声掛け・連絡により信頼関係を構築	B	B	いじめ対応等の研修の充実を図る。 いじめ加害者へのケアも必要。	
	2 問題発生時の初期対応の徹底	①被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底	A			
	3 教員研修会の充実	①いじめ問題対応の研修を実施	B			
その他	1 授業改善	①授業アンケートを活用した授業改善の実践。授業評価アンケート平均3.5以上	A	B	熱心な職員が多く、勤務超過は否めない。モチベーションを落とさず、業務効率を高めたい。	
	2 働き方改革への対応	①業務精選と業務の効率化を図る・・超過勤務時間月45時間以内の徹底 ②休暇の取得促進・・各自が年休取得14日以上	B			

＊ 評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）